

日本の色④ 赤橙：赤みを帯びた橙色。
 橙色は柑橘類のダイダイの実の皮の色に
 由来する。ほおずきの実が熟れるとこの
 色になる。



江戸下町伝統工芸館：江戸の伝統と下町の風土に育まれた職人の工芸品を展示している。毎週土・日には実演会もある



テプロ浅草館：1階には「東京下町ギャラリー」、2階には明治から昭和初期の浅草を再現した「浅草下町ストーリー」がある



Chihiro Kawakami

川上千尋氏
 1949年、てぬぐい店の長男として浅草に生まれる。幼少の頃からてぬぐい店を志し、16歳で美術研究所に入所。その後店に入る。浅草をより良い町にして子供たちに残すため、浅草槐の会を設立。

「ふじ屋」：住所・東京都台東区浅草2-2-15
 電話・03-3841-2283

浅草の町

東京では最古のお寺として親しまれている浅草寺。その浅草寺を中心に、門前町として江戸時代から栄えた。今も昔も多くの参拝客で1年中賑わっている。



浅草寺：628年、漁師の兄弟が隅田川から拾い上げた観音像を供奉したのが始まり



弁天堂：除夜の鐘を聴らすのがここ。周囲には数多くの石碑が建てられている



仲見世通り：門前商店街。江戸中期に始まり、現在は約90の店が軒を連ねる



浅草文化観光センター：雷門のはす向かいにある。正面にからくり時計がある。白鷺の舞、金龍の舞、三社神輿が登場

ゆつくりと歩き、その下町情緒に触れる

連載第二十一回 下町情緒を満喫

浅草を歩く

真の国際化とは自分の国を知ること。
 長い歴史を受け継ぎ、今でも下町として栄える東京・浅草。
 古き良き下町人情に触れ、日本の素晴らしさを再認識したい。



やまと
 日本のおふれ

text by 渡辺幸裕 (案内人) + photographs by 稲垣純也、寺尾 豊

下町情緒を感じながら

東京の下町の代表格である浅草。日本を、江戸を感じられる町として、国内外の観光客がひっきりなしに訪れる。東京在住者にとってもふらりと出かけられる心地よい町であり、次ページにあるように1年を通して行われる様々な行事に参加すれば、下町気質の温かさに触れることもできる。

浅草・弁天堂すぐそばのてぬぐい店「ふじ屋」の主人で、浅草に店を構える人たちが構成されている、浅草槐の会会長も務める、川上千尋氏に浅草の町を歩きながら話を伺った。この取材では観光の視点ではなく、下町としての浅草を知るために欠かせないポイントを教えてもらった。

明治から昭和初期の浅草を館内に再現した「テプロ浅草館」や江戸の伝統工芸が展示されている「江戸下町伝統工芸館」など、仲見世通りから少し足を延ばすと町人の町として発展してきた浅草の、下町情緒や下町気質を感じることが出来る。

町の中心である浅草寺には、毎

【書籍】

『浅草（江戸明治篇）』
（堀切直人著、右文書院）
『大江戸を歩く』
（浅草寺日並記研究会）
『台東区の今昔』（人文社）

【ウェブサイト】

浅草大百科
<http://www.asakusa.gr.jp/>
浅草観光
<http://www.asakusa-kankou.com/>
江戸町情緒
<http://www.dentan.jp/>
会員制有料サイト ジャパン・ナレッジ
<http://www.japanknowledge.com/>

—下町を歩く時の装い—

乱菊柄・藍鼠色の浴衣に
麻の名古屋帯。半袴と足
袋で浴衣をきちんと見せる。
（相見佳恵さん＝読者、
人材サービス業勤務）



縞の鼠色の夏お召に、紗
献上の角帯を合わせる。
縞の袖なし羽織で涼しげ
にコーディネート。
（渡辺幸裕）

萬物撮影協力／銀座もとじ

案内人・文 渡辺幸裕（わたなべ・ゆきひろ）
ビジネス・コーディネーター。1950年生まれ。前職
のサントリー宣伝部で、海外イベントを担当した時、
自国文化についての知識のなさを痛感。2001年独
立を機にビジネスパーソン向けに日本文化超初心
者の会「和・倶楽部」を提唱、運営中。会のコンセ
プトは「日本人に生まれたことを喜びたい」。

【告知】

日本かぶれの会
下町・浅草を歩く会

浅草槐の会会長の川上千尋さんに、
下町としての浅草の楽しみ方を教えて
いただきます。歴史を感じさせる場
所を訪れ、より浅草の良さを実感して
みませんか。浅草で食事をしながらの
懇親会も考えております。ぜひご参加
ください。

日時：9月10日（土）16:30～20:30
会場：東京・浅草
募集人数：10人
参加実費：4000円（食事・講師謝礼）
締め切り：7月26日（火）
応募方法：<http://nba.nikkeibp.co.jp/yamato20/>で必要事項をご入力ください。
発表：抽選のうえ、当選者に直接ご
連絡します。

ご応募いただいた方に、本誌の取材協力
者として取材や写真撮影をお願いするこ
とができます。ただし、これら以外の目的
で応募者の個人情報を使用することはご
ざいせん。

ほおずき市

毎年7月9日、10日に行われるほおずき市。
浅草寺境内には250の「ほおずき店」と350の売店が並ぶ。
その賑わいは夜遅くまで続く。

200年近く昔に起こった
市と言われている。観
音信仰では、7月10日
の縁日に参拝すると、
その日の功德は四万六
千日分に当たると言わ
れ人気を呼んだ。ほお
ずきはその功德日の縁
起物として売られるよ
うになった。



浅草の歳事記

- 1月 初詣…浅草寺ほか
七福神めぐり…谷中、下谷、浅草名所七福神
大根まつり…待乳山聖天
- 2月 節分…浅草寺ほか
- 3月 金龍の舞・浅草観音示現会…浅草寺
隅田公園桜まつり…隅田公園
- 4月 浅草流鏝馬…隅田公園
早慶レガッタ…両国橋～白鬚橋間
- 5月 三社祭…浅草神社
お富士さんの植木市…浅間神社周辺
- 6月 鳥越まつり…鳥越神社
- 7月 下町七夕まつり…かっぱ橋本通り
四万六千日・ほおずき市…浅草寺境内
隅田川花火大会…隅田川
- 8月 台東薪能…浅草寺境内
浅草サンバカーニバル…馬道通り・雷門通り
- 9月 彼岸会…浅草寺
- 10月 浅草菊花展…浅草寺境内
- 11月 東京時代まつり…馬道通り・雷門通り
西の市…鷲神社
- 12月 羽子板市…浅草寺境内
除夜の鐘…浅草寺ほか

大切なことを見失わずに

約1400年の歴史を持つ浅草
は、昔からそうであったように、
1階が店や仕事場、2階が住居に
なっている建物が多く、仕事と生
活が一体となって営まれている情
緒あふれる町である。
しかし雷門の表通りには近年、

約1400年の歴史を持つ浅草
は、昔からそうであったように、
1階が店や仕事場、2階が住居に
なっている建物が多く、仕事と生
活が一体となって営まれている情
緒あふれる町である。
しかし雷門の表通りには近年、

日多くの人が訪れる。昼間ももち
ろんいいが、夜になるとライトア
ップされる浅草寺もまた格別だ。
この号の発売直後、7月9日・10
日は「ほおずき市」が行われる。
地元では「四万六千日」と呼ばれ、
境内にはほおずきを売る露店がず
らりと並び、夏が来たことを感じ
させてくれる行事である。

ファミリーストラランやファスト
フード店が増えてきた。多くの観
光客で賑わう場所だけに、経済原
則にのっとって出店しているのだ
ろうが、景観との調和やメニユー
構成の工夫など、町の独自性を理
解し共生する気持ちがもう少しあ
つたらと考えさせられた。チェー
ン店でも浅草らしい魅力ある店で
あれば、住民も訪問者も、新しい
時代の下町が楽しめるだろう。

1年を通して参拝客で賑わう下町浅草